

2018 (平成30年) 9月1日発行

発行者: 大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部: 〒579-8012 大阪府東大阪市上石切町1-3-23 tel&fax 072-943-1865 (編集責任者: 広報部田隅)

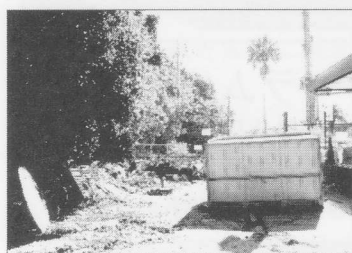
明石タコ、香川のイイダコ問題の現状と課題

来田仁成

(大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

JOFI大阪会員のみなさま、この夏の記録的猛暑の日々いかがお過ごしでしたか。6月初め以来、危険のある猛暑と熱帯夜が続く中、さまざまな事件が起きました。その極め付きが8月15日のスーパーボランティアによる行方不明2歳児の発見です。彼の年齢は78歳だと言いますからわたしたちとあまり変わりません。警察、消防団など捜索のプロ集団と異なった独自の視点や、ボランティアに対する考え方などまことに敬服に値します。

そうこうするうちに大阪南港魚釣り園護岸の損壊です。



わたしたちの活動で長い間集めた（一部預託もありますが）レンタル用の竿リール、ライフジャケットを収めた金属製の物置が高潮、高波に80センチ余りも押し流されて泥まじりの潮で汚れ、物置は使用不能になりました。早速



翌日曜日にJOFIのメンバーが集まって真水で洗浄し、いまは会員の倉庫に保管して頂いています。

いずれはかもめ大橋下の高場



に保管場所を移す計画ですが、高場は工事中、駐車場は潮をかぶって丸高渡船さんが支度中であったキャンピングハウスは波で右往左往し、せっかくの準備一切が無駄になりました。いずれ工事が終了すればJOFIの物置場が用意されるはずですが。

さて釣りをめぐる世界にもさまざまなことが起きています、明石のタコ問題、香川のイイダコ問題がいま表面化している漁業者との問題です。両者ともに陸からの釣りには100メートル以下は放すというルール 以外は制限がありませんがボートからの釣りには漁業者の側でかなりの反発が出ています。

タコもイイダコも漁期になると無数のボートが出て漁場が占拠される、小型が乱獲される、その釣果が市場に出回るケースがある、テンヤや餌木が漁具に引っ掛かって漁民の怪我が絶えないという苦情が多いのです。

わたしたちの釣りは主として陸から、あるいは遊漁船からということなので、あまり危機感はないのですが、こうした問題に積極的に関与して和解の手助けをするのが全つり協の本来の役割です。

ルール、マナーを守ろうその原点に戻って積極的に話しかっていかねば「釣りを楽しむ自由」が侵害されることになる、それを支えているのが全つり協であり、JOFIの活動なのです。ご協力をお願いします。

釣り場では必ず

ライフジャケットを着用しましょう



公認釣りインストラクター（釣り指導員）とは

健全なレクリエーションとして、あるいはエコロジカルスポーツとしての釣りと、釣り場をとりまく水産資源の保護、自然環境保全の知識を普及させ、釣り技術と合わせ、釣り場での安全確保、釣り場でのルールマナーなどの指導をおこなうことを目的とした活動のための公認資格です。

釣りインストラクターの資格認定は、事業の主体である

一般社団法人 全日本釣り団体協議会が行います。

(<http://www.zenturi-jofi.or.jp>)

平成30年度公認釣りインストラクター資格試験 (大阪会場)

受講受験日時 平成30年12月15日 (土) ~ 平成30年12月16日 (日) 9:00~17:00

申込書受付及び払込期間 平成30年10月 1日 (月) ~ 平成30年11月30日 (金) 必着

受講受験会場 ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校 (大阪市中央区船場4-3-2御堂筋MIDビル)

明石沖のマダコ釣り 釣り人にマナーが求められる (H30-7/6)

「明石沖マダコの捕獲制限やマナー」に関する意見交換会が、兵庫県水産行政や明石漁業関係者・遊漁者が出席（JOFI大阪から来田代表と辻会員が出席）し、日本釣振興会近畿地区支部会議室で開催されました。

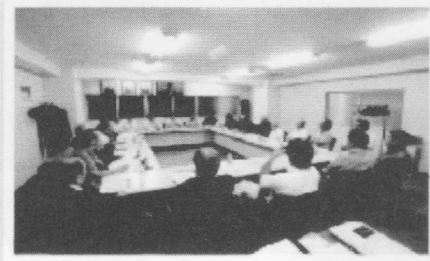
昨年度も開催され、平成29年度取り組み状況の報告

- ①「漁協指導船（3日間で約100隻に指導・周知実施）」
- ②「海保による周知」などの海上指導
- ③「報道関係による釣り遊漁ルールの啓発」
- ④「タコ釣り遊漁ルールの関係施設への周知」を実施したが改善はあまり見られていない。

多数のマイボートなどを使用した釣りが行われ、漁船の航行や漁業の妨げになっている。調整規則で禁止されている「100g以下は放流する」「禁漁期以外でも一人10匹」と決められているが、禁止されている小型を多く釣り上げ販売している者もいるとの報告がありました。

また、一本の仕掛けにタコジグやタコエギを数個つけて、数多く釣ろうとする釣り人もいるとのこと。今回の意見交換会では、遊漁者と地元自治体や漁業関係者とより協力して、実態を明確にして、海上保安庁との連携を密にして取り締まりを強化していく。

しかし各種団体に参画している釣り人には周知徹底ができて、以外の遊漁者に現在実施している施策の他、どのようにアピールし理解してもらうかが大きな課題であると考えられます。（報告 辻）



第14回「ほっといたらあかんやん大阪湾フォーラム (H30-2/24)

春の足音が聞こえる2月24日（土）、第14回大阪湾フォーラム「大阪湾もりもり、ある時〜♪、ない時〜♪」が大阪府立青少年海洋センター（淡輪）で開催されました。大阪湾沿岸で活動する市民や団体が一堂に会し、情報を共有し交換できる場として毎年1回開催されています。

今回のフォーラムでは、せんなん里海公園に開館した「しおさい楽習館」設立の経緯、活用について、大阪湾の海藻に着目した大阪湾再生についての活動報告が行われました。大阪湾の海藻の標本展示では、日頃釣り場では海藻が生えている程度の感覚しかありませんでしたが、標本展示を見ることにより種類や違いを実感できました。午後のシンポジウムでは、西鳥取小学校3年生による

「アマモのあるぼくたちの海」の発表に大変感激し、また高校生による各取り組みの発表、パネルディスカッションなど今後の環境保全活動の取り組みに参考となるお話を聞けたことに大変有意義なものとなりました。

私達JOFI大阪も、釣り人として釣り場の環境保護、釣り具の環境への影響等の削減についての取り組み（活動）を行っています。フォーラムに参加し大阪湾を「ほっとけない」元気な市民や、団体が一堂に集う場で経験や情報、想いについて交流が出来た一日であったと思います。（報告 田隅）



第11回大阪湾生き物一斉調査 (H30-5/26)

釣り人として棲息している魚種調査に協力

午前8時30分から午後1時まで、6名のインストラクターが協力しました。フェンスが開錠されたので、石積護岸の外側に出て釣り具を準備して開始です。

一人は石ゴカイとシラサエビで採り釣り、一人はシラサエビでウキ釣り、また一人は虫エサで投げ釣りとして三者三様の釣りをを行うほか別の3名は、水質調査のサポート

を実施し報告に備えました。釣りグループの釣果は、ベラ・メバル・ガシラ・アナハゼなどを釣り上げましたが、ミニサイズがほとんどでした。

10時から岩場内側の砂浜では

手製の網で、地引網体験が2回実施されハゼやメバル、ベラなど7センチから8センチ前後を多数捕れました。

その後全員で、砂浜や岩場の生き物一斉調査を行いました。子供達は大喜びで生き物を捕まえていました。

正午から、近くの「しおさい楽習館」で捕獲した魚、貝、海藻類の説明が鍋島氏と松井氏により行われ、来田代表から水質調査の結果を参加されていた多数の方に報告しました。（報告 辻/写真 室井）

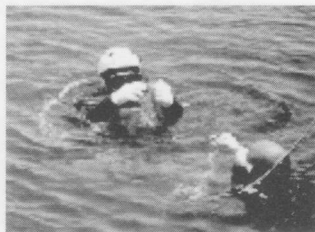


報告 4

淡輪漁港水中清掃作業報告 (H30-5/12)

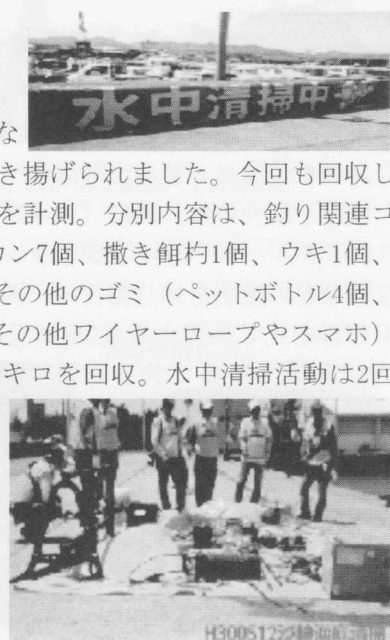
日本釣振興会大阪府支部・漁業関係者・協力ダイバー(6名)・JOFI大阪インストラクター(3名)が参加、総勢31名で淡輪漁港で水中清掃を実施。

この漁港は日本ボーイスカウト大阪連盟なみはや地区やかわち地区で実釣の開催場所であり、海底ゴミの量や種類が大変気になっていました。協力ダイバーが海に飛び込み水中清掃を開始。しかし、海底は泥が蓄積しており手を伸ばしても底に届かないとこのことで、泥中にゴミがあるが見つけるのが難しく、特に小さなゴミの回収はあまり出来ないとの話でした。水中清掃作業は1時間30



分ほど続けられそれなりのゴミが海底から引き揚げられました。今回も回収したゴミを分類し、重量を計測。分別内容は、釣り関連ゴミ(釣り竿5本、バツカン7個、撒き餌杓1個、ウキ1個、重り1個、エギ2個)、その他のゴミ(ペットボトル4個、カン54個、ビン6個、その他ワイヤーロープやスマホ)など併せて、総重量80キロを回収。水中清掃活動は2回目の参加で、釣り人のゴミが多く引き上げられるかと思っていたが少なくて安心しました。

(報告：物部)



報告 5

石川大清掃に参加 (H30-3/4)

～自然を守り緑と太陽に恵まれた住みよいまちづくり～

第35回大和川石川クリーンキャンペーン作戦は大阪府下65か所で開催。私達3名は、富田林市石川金剛大橋下流石川グランドで参加協力しました。開始時間15分前に到着しましたが、広い河川敷には市職員が数名見当てるだけ。温かい飲み物を提供してくれるテントでの応援者も手持ち無沙汰ようで、参加者を待っていました。

時間前でしたが、参加の記念品とナイロン袋を受け取り清掃作業を開始しました。

9時過ぎになると、近くの住民や富田林市内の高校生、ボーイスカウト



の参加で河川敷は色とりどりの華やかな会場に変わっていました。

しかし、開会式や回収ゴミ等の説明もなく始まったので、草や木の枝など自然にかえることのできるものまで回収されていました。

私達は自然にかえることのないコンビニのビニール袋や空き缶、発砲スチロールなどを分別回収しました。

ゴミは草が生い茂っている所も含め、非常に少なく感じました。当日だけでなく地元人達の意識と活動されている事を実感しました。(報告 中島)



報告 6

南港魚釣り公園で魚拓教室 (H30-5/6)～(8/5)

今年も南港魚釣り公園で魚拓教室を、5月6日(日)から開始しました。昨年好評で、釣り園からの依頼があり開催しました。当日は、釣り日和で300人以上の来園者もあり、カタクチイワシが釣れだし子供達も大喜びで、釣りを堪能している様子でした。最初に申込があったのは、10分前後のカタクチイワシの魚拓は、塩でヌメリを取る所から子供と保護者に見てもらいながら進めていきます。今年初めてでもあるのと、天気良かったためすぐ乾いてしまったりして、なかなか思ったような魚拓を採ることが出来ません。その間は、別のインストラクターが凶鑑でカタクチイワシのことや波止で釣れる危険な魚について、子供と話をしながら時間を過ごしています。

魚拓が出来ると、魚の名前・釣り人の名前や日付そして、何センチかを筆で書いてもらいますが、筆が初めての子供でも大きな文字で書くことが出来ます。

今日の最年少は2歳で、母親が子供の手を取って名前を書き喜んでおられました。その後もアイナメの新子やメバルの25センチが持ち込まれたりして、2時間で12枚の魚拓を作成しました。また、保護者の方に魚拓を入れる額を100円ショップで購入し、今日の記念にして貰うよう依頼しました。保護者が子供との思い出を残すことの喜びを感じておられるように思います。

(報告 辻)



報告 7

東大阪市意岐部東小学校4年生遠足で南港魚釣り園へ(H30-6/14)

東大阪市意岐部東小学校4年生36名と学校関係者7名、合計43名が遠足で初めて南港魚釣り園護岸へ来園。

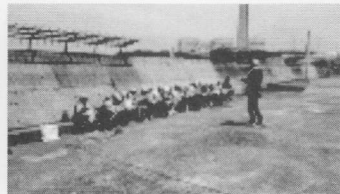
挨拶と紹介の後、教材「スキスキフィッシング」により釣りのルール・ライフジャケット着用の重要性、危険な魚などの説明を15分間行い、釣り体験をする班・大和川河口を見学学習する班2班に分かれ行動開始しました。

釣り班は、初めて釣りを
する児童も多く虫エサを
針につけられない人が大
半で大変でしたが、それ
なりの釣果があり釣りの
喜びを体感してくれたよ
うでした。



大和川河口への案内と「大和川から海へのつながりと生き物を守る」をテーマとして、大和川の歴史と共に海運交通路として活用されたことなどと、全域に棲む多くの生物と命の大切さを話しました。

当日の釣果はアイナメ9匹、ハゼ1匹、ガザミ1匹、ヒトデ3匹でしたが、特に釣りに対して児童が積極的に行動し喜ぶ姿に、1時間滞在を延長されました。最後に児童達からお礼の言葉があり、インストラクターも日頃とは違う釣り教室を堪能していました。(報告 石川)



報告 8

フィッシングショーOSAKA2018開催(H30-2/3~2/4)

今年のフィッシングショーOSAKAは、会場も広くなり、総入場者数は57,856人で昨年を3%上回りました。

2日には日本釣振興会環境委員会主催で「ヤマメ・アマゴ親魚放流の可能性を探る」と題して「溪流釣りの未来を考えるシンポジウム」が6号館2階会議室で13時に鈴木康友委員長の挨拶から始まり15時まで開催され満席の盛況でした。4号館はファミリーで楽しめるコーナーうきうきイベントホールとして、子供お祭り広場やマス釣り体験ができるコーナーも二か所あり、多くの人が釣りを体験できるよう企画されていました。平成29年度大阪湾で釣れた魚の大物の表彰式も行われ、多くの方が受賞され賞状と賞品を手に入っていました。



毎年人気のある仕掛け&釣り方教室は今年も午前中で満席となってしまう、残念ながら受講できない入場者も多く見られました。私達釣りインストラクターは、同4号館で「波止釣り教室」「船釣り教室」6号館Bゾーン大阪府美化安全協会で大阪湾の現状を説明したり、子供達には「缶バッチ」の作成を支援しましたが、入場者の方と釣りの話していると、昨年よりもっと多くの入場者があったように感じました。

(報告 物部)



報告 9

第22回 JOFIおおさか定時総会を開催(H30-3/25)

「第22回定期総会」が、ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校で開催されました。開会の言葉に続き、元大阪東支部長等を長年務めていただいた近藤幹雄氏が昨年10月に亡くなられたことを受け、全員で黙禱を行いました。来田代表の「今年も開会できた喜びを会員全員で受け止め、新しい年度に向かって進んで行こう」との挨拶に続き、全日本釣り団体協議会綿井良隆常務理事からは、挨拶と本部の現状や今後についてのお話をいただきました。塩見孝男相談役からは、今後のJOFIお

さをどう進めていくべきか、会員増員への提案を含めた挨拶をいただきました。また、当会の円滑な運営に多大なご貢献をいただいた大西勇大阪北副支部長には、特別表彰として感謝状を贈らせていただきました。議長に山崎勝彦相談役を選出し、了承を求める事項から議事に入り、議案は全て満場一致で了承されました。

(報告 室井)



下記、釣り教室をお手伝いいただける釣りインストラクター募集

開催日 9/30日(日) 大阪市立弘済みらい・のぞみ園釣り教室

開催日 10/13日(土) 第18回バリアフリー釣り大会

<http://jofi-osaka.com>

